

【議題】 男女共同参画センターとダイバーシティ（多様性）について

【説明】

「ダイバーシティ」という言葉は、企業の経営戦略としてよく聞かれるようになりましたが、男女共同参画センターが考える「ダイバーシティ」とは当事者性の尊重を基にしてこそ、多様性を受容できるというスタンスです。具体的な事業についてご説明しました。

男女共同参画センターで実施している自助グループ支援、Friend SHIP よこはま、近隣小学校のバリアフリー見学その他、横浜市民ギャラリーあざみ野においてもフェローアート、アートワゴン、あざみ野マルシェ、親子で造形ピクニック等、多様な方たちとつながる事業を実施していることをご説明した後、委員の方々からご意見、ご提案をいただきました。

【意見交換の概要】

委員の方々それぞれの活動において、つながりを持つことの重要性は共有できているが、どこにつなげばいいのか、つなげる先が明確でない等、迷うことがある。情報発信するなど、必要な情報を必要としている方々に届く仕組みをつくるのが大切ではないかとのご意見をいただきました。

【要旨】

- ・自助グループのパンフレットだが、当事者に行き渡る広報が必要ではないか。喫茶店などに置くのもいいと思う。
- ・外国籍のお母さんたちは日本語が不自由で情報収集に苦労されている。自分たちの活動がパイ役になればと思い、子育てレファレンスブックを英語で作成した。行政施設だけでなく、英語対応をしている病院や幼稚園にも置いてもらえるようにしようと思っている。
- ・母国では仕事をしていた外国籍の女性も専業主婦になって日本で暮らしているが、自分の存在を小さく感じ、自信を失っていく方が多い。日本語がネックでキャリアを分断されてしまった方々をどう活かしていくかが私たちの課題。
- ・お金がないことだけが貧困ではなく、情報がないことや国籍の悩み、ひとりで食事をする高齢者等、それぞれの生きづらさを抱えている人が多いと感じる。多様な問題も多いので横のつながりが必要であると感じている。
- ・地域ケアプラザも相談場所であるが、お互いの施設のことを知らなかったりする。自分たちの施設のことを発信していくことが大切で、施設間同士で情報を共有していくことが有効である。
- ・自分たちの枠以外の人と交流することは必要だと思っている。センターでは色々な講座を実施されているが、講座と講座をリンクさせることで違うコミュニティが生まれるのではないかと思った。
- ・福祉の現場では本人本位が重要。無理なんじゃないかと決めつけるのではなく、どうやったらできるのかを探っていくことが大切だと思っている。障がいのある方がインクルージョンできるような活動をする場があったらいいと思っている。
- ・養護学校でも地域との関係を大事にしていて、体育館や音楽室を健常者にも開放している。アートや音楽を通じて地域へ発信することもしている。外国籍の保護者ともいかにコミュニケーションを取っていくかが重要で、通訳制度を利用したりしている。
- ・ハローワークでも外国籍の方や生活保護受給者の就労支援をしているが、若い方たちはネットや携帯で仕事を探すことが多いので、ハローワークももっと発信していかななくてはと危機感を持っている。障がいのある方もその企業の一員として働いていただくことを支援してい

る。

- ・男女共同参画センターのホームページをみたが、英語表記が一部しかなかったので、自分たちのグループには英語、韓国語、中国語などができるメンバーがいるので、リソースを生かせればと思う。
- ・ハローワークの中でも人材不足の分野が建設業、運輸業、介護、保育など。建設業、運輸業のような男性の職場に女性が参入し活躍をしているが、求人側からするとまだまだ男性の職場という意識が高いので、セミナーを開いて潜在的な求人の発掘に努めている。
- ・高齢者雇用について。青葉区、都筑区は年齢が高い方が多い地域で、定年後、家で時間を持て余すので仕事を探しに来る方も増えてきた。しかし、今まで事務職に就いてきたからと事務職を探しても、あるのはビル管理、清掃業務など限られているのでマッチングが課題。

【特記事項】

横浜市民ギャラリーあざみ野の宮野副館長にご出席いただきました。

【次回のご案内】 第3回 市民運営協議会の日程

日 時：2019年2月8日（金）午前10時～12時（予定）

会 場：セミナールーム2

議 題：「地域連携から得られる力について」